

医療法人京都翔医会
西京都病院公式キャラクター
地域応援ねこ
にしょまる

医療法人京都翔医会
西京都病院
NISHIKYOTO HOSPITAL

医療法人京都翔医会
西京都病院広報誌

西京区を元気にする

たけのみち

ー竹の径ー

vol. 05

2026年5月



リハビリテーション部特集

地域を支える、回復への架け橋

特集 ウエルネス・ニシキョー

４０歳から始める大腸がん健診

リハビリテーション部
特集

地域を支える、回復への架け橋

医療法人京都翔医会　西京都病院
リハビリテーション部　部長　窓場（まど ば）　勝之（かつゆき）

かけがえのないこの街で、リハビリテーションを提供するものとしての責務

西京区で生まれ育った私にとって、この街はかけがえのない存在です。多くの学びと友情を育んだこの地で、西京都病院リハビリテーション部の部長を務めることに深い縁を感じています。

リハビリが開始される時に患者さんは療法士を選べません。だからこそ、私たちリハビリテーション部の職員一人ひとりが、自らの職業に責任とプライドを持ち、最良の医療の提供がなされ、人材を育成することが私の責務です。

そして、地域の皆様が安心して暮らせるよう、西京区内の医療・介護・福祉機関に従事されるさまざまな職種の皆様とも連携し、地域社会に貢献することを目指します。住民の皆様の健康と笑顔のために、私たちリハビリテーション部は全力を尽くします。



西京都病院リハビリテーション部 ～地域を支える回復への架け橋～

西京都病院リハビリテーション部は、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、歯科衛生士など、国家資格を持つ50名あまりのスタッフが在籍する専門部署です。

職員の平均年齢28歳と若く活気に満ち溢れながらも、理学療法士協会認定の療法士が多数を占め、大学院修了者も多く、最新の医学的根拠に基づいた質の高いリハビリテーションを提供しています。

日々の研究活動や学会発表、多数の論文発表を通じて常に知識と技術を更新し、多くの大学からの実習生を受け入れるなど、次世代の育成にも力を注いでいます。

今後は訪問・通所リハビリをさらに強化し、地域の皆様の健康長寿を支援できるよう一層努力してまいります。

回復期リハビリテーション病棟 ～在宅復帰を叶える多職種連携～

当院の回復期リハビリテーション病棟では、脳卒中や骨折などで身体機能を損なわれた患者さんが、住み慣れたご自宅へ戻れるよう、集中的なリハビリテーションを提供しています。

医師、看護師、療法士、栄養士、歯科衛生士、社会福祉士といった多職種が密接に連携し、患者さん一人ひとりに合わせたプログラムを作成。自宅退院に向けたカンファレンスはもちろんのこと、嚥下機能が低下した患者さんには、嚥下造影検査や食事カンファレンスを通じて安全で楽しい食事ができるようサポートします。



また、退院後の生活を見据え、調理訓練や自転車訓練など、実用的な訓練にも力を入れています。今後は自動車運転支援の準備も進め、より包括的な支援を目指します。

退院後も、医療法人京都翔医会グループの訪問リハビリやデイケアへと途切れることなくサポートを継続し、患者さんが安心して地域での生活を送れるよう支援してまいります。

外来リハビリテーション
～手術前後の包括的サポート～

当院の外来リハビリテーションでは、主に整形外科の手術を受けられる患者さんを中心に、手術前から術後まで一貫したリハビリテーションを提供しています。手術前には身体の状態を丁寧に確認し、術後は痛みの軽減、関節の可動域改善、筋力回復、そして日常生活動作の向上を目指し、一人ひとりの状態に合わせたオーダーメイドの理学療法を行います。

運動器・徒手理学療法の認定理学療法士や運動器徒手理学療法認定士（OMPT）の資格を持つ専門性の高いスタッフが在籍し、自主運動指導を含め多角的な視点からサポートします。

さらに、ラジオ波、超音波、電気刺激装置などの先進的な物理療法機器も活用し、患者さんにとって最良の回復を追求しています。



訪問リハビリテーション
～住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを～

訪問リハビリテーションは、「自宅での生活を大切にしたい」という想いに応えるサービスです。

利用者さん一人ひとりの目標や生活背景に寄り添い、身体機能の回復だけでなく、自宅環境に即した動作練習や生活課題への具体的なサポートを提供します。「やってみたい」を「できる」に、「できる」を「続けられる」に変えていき、その一歩を未来へつなぐリハビリテーションを目指しています。

西京都病院を母体としているため、退院後の生活をシームレスに支える体制が整っており、医療・介護・地域との連携を重視しています。

地域住民の皆様が住み慣れた場所で、自分らしい暮らしを安心して続けられるよう、支援体制の充実にこれからも取り組んでまいります。

ウエルネス♥ニシキョー

４０歳から始める大腸がん検診

～自分の体を守る第一歩～

当院では、地域の皆さまの健康づくりを支える新たな取り組みとして、
健診センターの開設を予定しています。
その検査項目の一つである「大腸がん検診」について、消化器内科の糸川先生に分かりやすくご紹介いただきました。

そもそも、大腸がん検診とは何なのか？

40歳以上の方を対象に、便に血液が混じっていないかを調べる「便潜血検査」です。大腸の病気によっては、病変部から出血することがあり、それを調べることで、精密検査が必要かどうかを確認する検査です。便潜血検査とは、便の中に目に見えない血液が混じっていないかを調べる検査です。大腸の病気を見つけるきっかけとなる、大切な検査の一つです。



便潜血検査とは、便の中に目に見えない血液が混じっていないかを調べる検査です。大腸の病気や大腸がんの早期発見につながる、大切な検査の一つです。

大腸がん検診の目的、その大切さとは？

大腸がんを早期に発見し、必要な検査や治療につなげることが、大腸がん検診の大きな目的です。大腸がんにつながる可能性のあるポリープを早期に発見し、医師の判断により治療につなげられる場合があります。

もし大腸がんが見つかったとしても、早期であれば、身体への負担に配慮した治療方法を選択できる場合があります。状態によっては、大腸カメラを用いた治療を行うことがあり、日帰りで対応できる場合もあります。



大腸がんとは？

気づきにくいが、身近ながん

大腸がんは大腸の表面の粘膜にできる癌であり、2023年の統計では、女性のがん死亡数の第1位、男性のがん死亡数の第2位となっています。

早期の段階では自覚症状はほとんどありません。進行すると、便に血が混じることや、また便の表面に血液が付着することもあります。慢性的に出血すると貧血を呈することや、腸が狭くなり便秘や下痢、便が細くなる、便が残った感じがする、おなかが張るなどの症状が出ることがあります。

さらに進行すると腸閉塞(腸がつまってしまう)により便が出なくなり、嘔吐・腹痛などの症状が出ることがあります。

便に血が混じる原因として、痔などの良性疾患のほか、大腸の病気が関係している場合もあります。

代表的な検査として、大腸カメラがあります。大腸カメラでは、大腸の状態を直接確認することができます。また、検査に不安がある方には、医師の判断のもと、必要に応じて鎮静剤を使用することもあります。検査中にポリープが見つかった場合は、医師の判断により切除を行うことがあります。40歳を過ぎたら、身体のチェックのひとつとして、大腸がん検診について考えてみませんか。気になる方は、当院までご相談ください。

＼教えてくれたのは／

消化器内科　医長
糸川（いとかわ）芳男（よしお）



第４回

患者さんの“これからの生活”に寄り添う医療ソーシャルワーカー（MSW）をご紹介！



入退院支援センターとは？

入退院支援センターは、患者さんが医療と生活を切れ目なくつなぐための相談窓口です。紹介受診や転院の調整、退院支援、在宅医療や介護サービスとの連携など、病院と地域をつなぐ役割を担っています。

医療は病院の中だけで完結するものではありません。入院は人生の一場面であり、その前後には生活があります。入退院支援センターは、この連続する暮らしの中で医療をどう位置づけるかを考える場所でもあります。

退院後の生活を見据えた支援

入院すると、多くの方が「退院後どう生活するか」という課題に直面します。体の状態の変化、認知機能の低下、家族の介護力、住環境、経済状況など、さまざまな要素が重なります。MSWは、この状況を整理しながら、患者さんやご家族とともにこれからの生活を考えます。制度の案内やサービス調整も行いますが、それ以上に大切なのは、その人の思いや価値観に耳を傾けることです。人は、単に「適切なサービス」を受ければ安心できるわけではありません。迷いや葛藤を抱えながら選択していきます。MSWの仕事は、そうした思いに寄り添い、方向性を見出していくことです。医療・介護・生活・家族関係といった複数の要素を、その人にとって意味のある形に組み立て直すこと。これは、退院後の生活を整えるうえで欠かせない視点です。



地域との連携という仕事

退院後の生活は地域の中で続いていきます。かかりつけ医、訪問看護師、ケアマネジャー、介護サービス事業所など、多くの専門職が関わります。入退院支援センターでは、これらの関係機関と日頃から関係を築き、情報を共有しながら支援をつないでいきます。ただし、連携は単なる手続きや調整ではありません。それぞれの専門職の考えや立場を尊重しながら、「この人にとってよりよい生活とは何か」を共に考える取り組みです。異なる視点が交わる中で、意見が揺れることもあります。そのような場面でも対話を重ねながら、患者さんにとって納得できる形を探していくことが求められます。

思い、感情に向き合う関わり

MSWの仕事は、制度や調整だけではありません。患者さんやご家族の不安、悲しみ、悩みといった感情に向き合う仕事でもあります。



ときには、将来への不安や家族間の意見の違いに直面し、簡単には答えが出ない場面もあります。その中で、相手の思いを受け止めながら関係を築くことは、決して容易ではありません。

しかし、そうした感情のやり取りこそが、その人らしい選択を支える土台になります。MSWは、目に見えにくい「心の動き」に関わる専門職でもあります。

患者さん・ご家族へのメッセージ

入院は、多くの不安や戸惑いを伴う出来事です。「これからどうなるのか」「自宅に戻れるのか」「家族に負担をかけないか」――そうした思いを抱くのは自然なことです。入退院支援センターは、不安や疑問を一緒に整理し、これからの道筋を考える場所です。どんな小さなことでも構いません。気になることがあれば、どうぞ遠慮なくご相談ください。



私たちは、患者さんやご家族の思いに耳を傾けながら、その人らしい生活の形をともに考えていきます。一人ひとりが自分らしく生きていけるよう支援すること。それが入退院支援センター、そしてMSWの仕事です。

ぼちぼち介護

だれにでもいつかはやってくる、介護する時・される時。
「その時」に慌てないためにも、ぼちぼちと考え始めてみませんか？

第5回

その変化、見過ごしていませんか？

いつも「ぼちぼち介護」を読んでいただき、ありがとうございます。今回は「まだ大丈夫?と思ったときの判断ポイント」についてお話できればと思います。

日々の暮らしの中で、「少し気になる変化」を感じることはありませんか。例えば、外出の機会が減った、つまずきやすくなった、食事の量が減った、人と話すのがおっくうになった――こうした小さな変化は、加齢による自然なものと思われがちですが、実は介護予防の大切なサインであることがあります。


外出の機会が減った


つまづきやすくなった


食事の量が減った


人と話すのがおっくう

介護予防というと特別な運動や取り組みを思い浮かべる方も多いかもしれませんが、まず大切なのは日常生活の中での「気づき」です。そして、その気づきを見過ごさず、早めに対応することが、生活機能の低下を防ぐ第一歩になります。

一方で、「まだ大丈夫だろう」「相談するほどではないのでは」と迷われる方も少なくありません。ご本人だけでなく、ご家族も判断に悩むことが多い場面です。しかし、変化が続いている、以前と比べて明らかに様子が違うと感じたときは、一度専門職に相談してみることをおすすめします。早い段階での相談は、大きな安心につながります。

では、なぜこうした判断が遅れてしまうのでしょうか。その背景には、「年齢のせいだから仕方ない」という思い込みや、「人に迷惑をかけたくない」という遠慮の気持ちがあります。また、「どこに相談すればよいかわからない」といった情報不足も一因です。

私たち介護の専門職は、こうした不安や迷いに寄り添いながら、皆さまの生活を支える存在でありたいと考えています。小さなことでも構いません。気になる変化があれば、どうぞお気軽にご相談ください。早めの一歩が、これからの安心した暮らしにつながります。

気になる変化があればまずご相談ください

- 最寄りの高齢サポート（地域包括支援センター）
- 洛西西京都クリニック内　介護相談
  （毎週金曜日10:30～12:00）
- デイサービス上柱の郷内　街角相談所



介護福祉事業部 部長
桂寿の郷 施設長
片山（かたやま） 雄介（ゆうすけ）

NISHIKYOTO HOSPITAL NEWS

「あつまれ！はたらくのりもの inトートひろば」に参加します！



開催日時　5 月 16（土）・17（日）
10:00 ～ 16:00

会　場　トートひろば

※西京都病院の参加は17日（日）のみです。
当日は救急車展示を予定しております。

新たなスタッフが加わりました！



4月1日、令和8年度のGenkiGroup合同入職式が執り行われました。今年も東日本会場と西日本会場をオンラインでつなぎ、各地の仲間とともに新たな一歩を踏み出す機会となりました。

そして西京都病院にも、新たなスタッフが加わりました。新しい仲間を迎え、院内にはこれまで以上に活気が生まれています。

当院では、患者さん一人ひとりに寄り添う姿勢を大切にしながら、多職種が連携して日々の診療にあたっています。新入職員もその一員として、先輩職員とともに経験を重ねながら、安心してご利用いただける医療の提供に努めてまいります。

新入職員の皆さんのこれからの成長と活躍を心より期待するとともに、職員一同で支え合いながら、地域に根ざした病院づくりを進めてまいります。

健診センター設立に向けて クラウドファンディングを開始しました！



西京都病院では、新たな健診センター設立に向け、クラウドファンディングを開始しました。当院は50年以上にわたり地域医療を支えてきましたが、日々の診療の中で「もっと早く気づけていれば」と感じる場面も少なくありません。その想いから、病気の早期発見・予防を目的とした健診センターの整備を進めています。身体への負担に配慮した検査や、診断から治療までを支える体制を整えてまいります。
地域の皆さまとともに育てていきたい取り組みです。ぜひ詳細をご覧ください。

未来の健康を守る、新しい一歩。
プロジェクト詳細はこちら＞＞＞

わたしの推し見せ

大好きなあの店、あの品、あの場所……
誰にも教えたくないけど知ってほしい
わたしの「推し」を紹介！

パセリの森



西京区・洛西にある「パセリの森」は、手づくりのお弁当が人気のお店です。今年3月末に開催された「らくさいさくら祭り」では、当院のスタッフ用弁当としてお願いしました。

どのお弁当も丁寧に作られており、幅広い世代に好まれる味付けが特長です。実際にスタッフからも「美味しい！」と好評でした。中でもおすすめは、ビジネスランチに入っているクリームコロッケです。外はサクッと、中はとろっとした食感が印象に残る一品です。日常のお昼ごはんとしてはもちろん、まとまった数の注文にも対応されており、地域の方々のさまざまな場面で利用されています。

会議向けのお弁当メニューも
充実しており、
さまざまなシーンで利用
されています。



当院のイベントでも
職員用のお弁当として
利用いたしました♪



推し人
洛西 西京都クリニック
課長　大西

info 京都府京都市西京区大枝中山町３－１０５
https://paserinomori-kyoto.com/

医療法人京都翔医会
西京都病院
NISHIKYOTO HOSPITAL

医療法人京都翔医会 西京都病院
〒615-8004　京都市西京区桂畑ヶ田町175番地
tel. 075-381-5166㈹　fax. 075-391-6166　URL https://hospynkh.jp/

医療法人京都翔医会 事業所のご案内

●西京都病院
京都市西京区桂畑ヶ田町175番地 tel. 075-381-5166㈹

●西京都病院　訪問リハビリテーション事業所
京都市西京区桂畑ヶ田町175番地 tel. 075-381-5166

●西京都病院デイケア
京都市西京区御陵溝浦町28番地8 tel. 075-391-3089

●西京都クリニック
京都市西京区御陵溝浦町26番地14 tel. 075-383-5020

●洛西 西京都クリニック
京都市西京区大原野東境谷町2丁目5-8 ラクセーヌ専門店2階
tel. 075-333-0111

●洛西 西京都クリニック デイケア
京都市西京区大原野東境谷町2丁目5-8 ラクセーヌ専門店2階
tel. 075-333-0112

●西京都病院　サービス付き高齢者向け住宅　洛柱の郷
京都市西京区牛ヶ瀬奥ノ防町104番地 tel. 075-394-0261

●西京都病院　デイサービス洛柱の郷
京都市西京区牛ヶ瀬奥ノ防町104番地 tel. 075-394-0261

●西京都病院　サービス付き高齢者向け住宅　桂寿の郷
京都市西京区川島権田町36番地1 tel. 075-391-4730

●西京都病院　訪問看護ステーション　秋桜
京都市西京区川島権田町36番地1 tel. 075-393-7558

●西京都病院　デイサービス　上桂の郷
京都市西京区桂畑ヶ田町202番地 tel. 075-383-0755

●西京都病院　サービス付き高齢者向け住宅　ファミリエール吉祥院
京都市南区吉祥院西ノ内町37番地1 tel. 075-672-5516

●西京都病院　デイサービス　ファミリエール吉祥院
京都市南区吉祥院西ノ内町37番地1 tel. 075-672-5517

●居宅介護支援事業所 西京都病院
京都市西京区御陵溝浦町26番地14 tel. 075-393-5619



医療法人京都翔医会 西京都病院広報誌
たけのみち　vol.05　2026年5月号
2026年5月15日発行
発行　医療法人京都翔医会 西京都病院
〒615-8004 京都市西京区桂畑ヶ田町175番地　tel. 075-381-5166
お問い合わせは　koho@hospynkh.jp

©医療法人京都翔医会 西京都病院　許可なく無断転載、複製、複写（コピー）等することを禁じます。